



## ハードウェアリファレンス

---

- シリアルインターフェイス (1 ページ)
- イーサネットインターフェイス (NIC) (1 ページ)
- 仮想 NIC を物理 NIC インターフェイスに割り当て (1 ページ)

### シリアルインターフェイス

VM Expressway には物理シリアルインターフェイスはありません。シリアルインターフェイスには VM ゲストの [コンソール (Console) ] タブを使用してアクセスできます。

コンソールウィンドウ ([vSphere クライアント (vSphere Client) ] ウィンドウの右下隅で識別される) を閉じるには、CTRL+ALT を使用します。

### イーサネットインターフェイス (NIC)

VM Expressway では、LAN インターフェイスは仮想 NIC です。VM Expressway のインストール時に、適切なドライバが設定されます。IP アドレスの構成は標準 Expressway インターフェイスを介して実行されます。

VM Expressway で次の 3 つの仮想 NIC が割り当てられます。

- 最初のは標準 LAN 1 インターフェイス用に使用
- 2 番目は、デュアルネットワーク インターフェイスが有効な場合に使用 (LAN 2)
- 3 番目は将来の使用のために予約

### 仮想 NIC を物理 NIC インターフェイスに割り当て

仮想 NIC は、次のように物理インターフェイスに割り当てることができます。

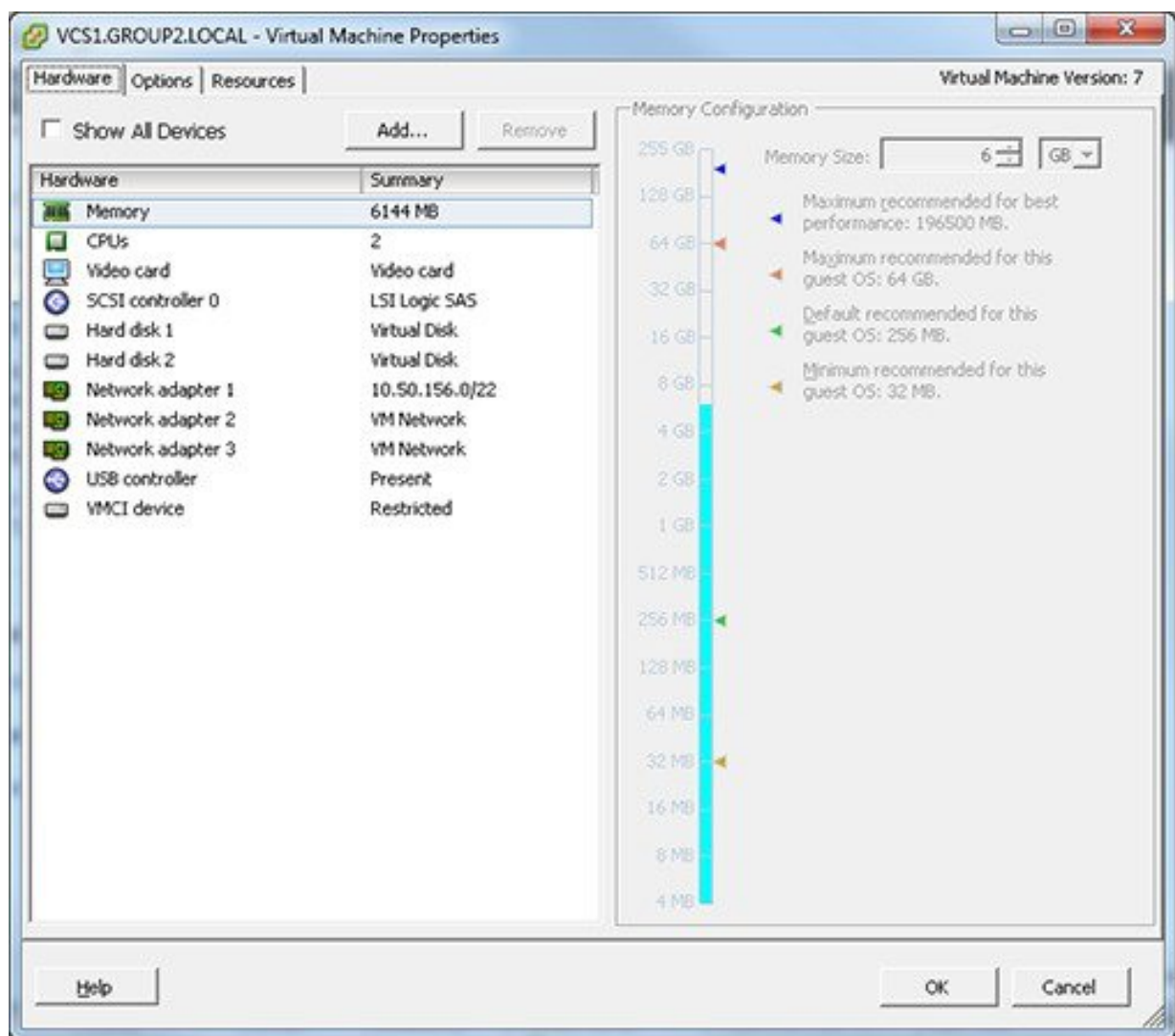
---

**ステップ 1** VM ホスト上の物理 NIC が接続されておらず、動作中でないことを確認します。

## 仮想 NIC を物理 NIC インターフェイスに割り当て

- ステップ 2** 各物理 NIC 用の仮想スイッチ (vNetwork Distributed Switches) を設定するか、既存のスイッチがあることを確認します。(VM Expressway を実行するホストを選択し、[構成 (Configuration)] タブの [ネットワーキング (Networking)] を選択します。)
- ステップ 3** 関連付けられた VLAN ID を持つ仮想マシンポートグループが、各物理 NIC につき、少なくとも 1 つ設定されていることを確認します。
- 新しい仮想マシンポートグループを追加するには、適切な仮想スイッチまたは vNetwork Distributed Switch で [プロパティ (Properties)] をクリックします。
  - ネットワーク ウィザードの指示に従います。
- ステップ 4** 目的の NIC に接続する仮想マシンポートグループの名前に注意します。
- ステップ 5** VM ゲストを選択し、それを右クリックし、[設定の編集... (Edit Settings...)] を選択します。

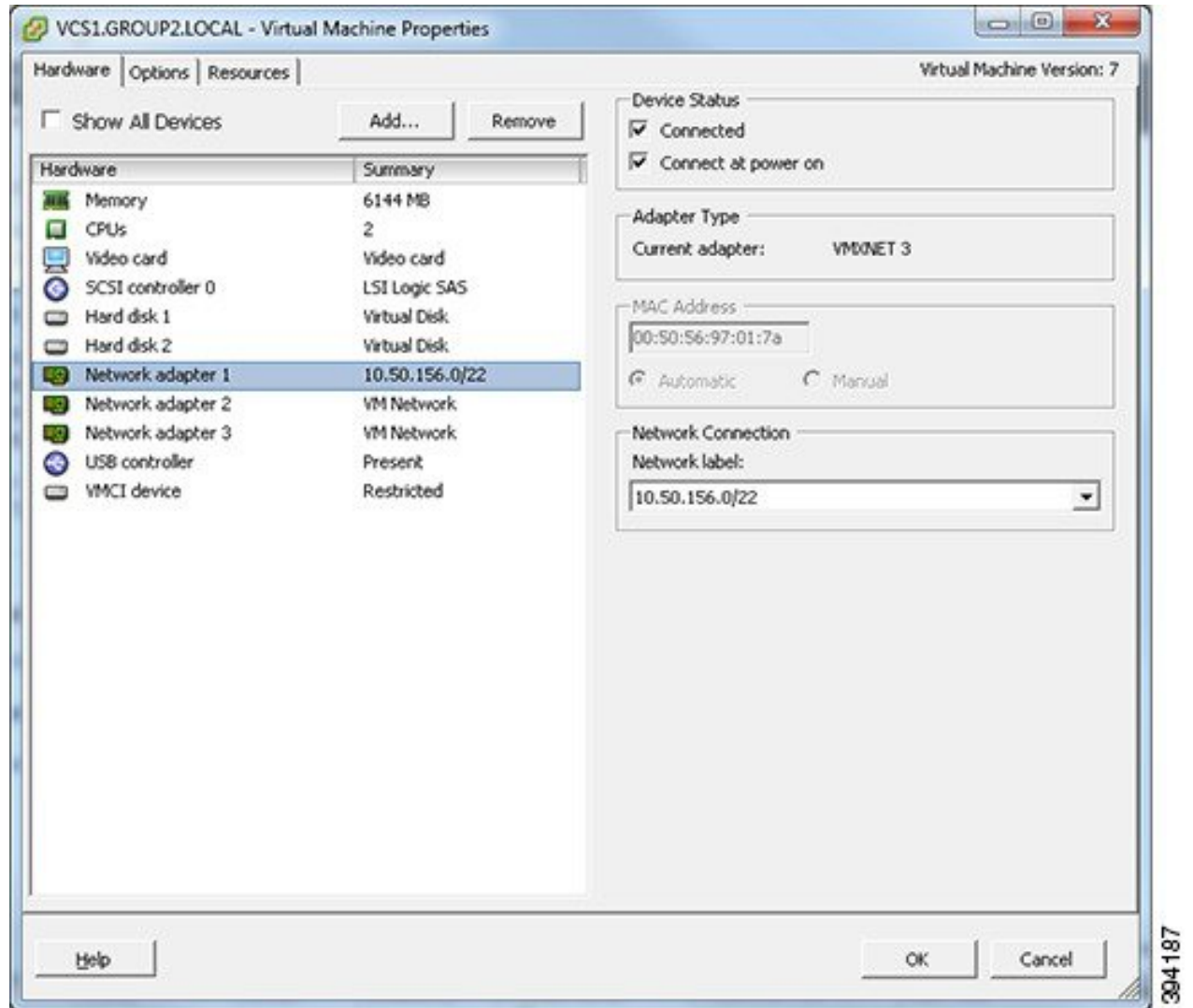
図 1: 設定を編集



394180

**ステップ 6** 目的のネットワーク アダプタを選択します（ネットワーク アダプタ 1 = LAN 1、ネットワーク アダプタ 2 = LAN 2）。

図 2: ネットワークアダプタの選択



**ステップ 7** 目的のネットワークラベル（仮想マシンポートグループ）を選択し、Expressway LAN インターフェイスを目的の物理 NIC と関連付けます。

**ステップ 8** 数秒後に、Expressway は物理インターフェイスを介して通信できるようになります。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。